

リスクマネジメントグループ グループ活動記録

作成：楠山（成城大学）

1．日時：平成 17 年 6 月 8 日（水）10：00～14：30

2．場所：武蔵大学50周年記念ホールH会議室

3．メンバー

・出席 9 名

小生方麻里（麗澤大学）、片岡真裕子（東京農業大学）、助川敦子（文化女子大学）、楠山直文（成城大学）、関全葵（東京家政学院大学）、高田涼子（国立音楽大学）、土屋貴之（法政大学）、新見敏子（中央大学）、森田敦子（東京国際大学）

・欠席 1 名

川越智之（駒澤大学）

4．討議内容

（1）先月に引き続き、個人情報保護法施行前後に実施した対策および対策案について各自発表を行った。その内容は下記のとおり。

利用者に対して

卒業生の利用カード発行 同窓会の名簿に載っているので申込書の住所の記入欄を省いた。

各校とも申込書に書かせる項目を減らすことについて再検討する余地があることでは一致した。

延滞者リストを名前と学籍番号の下 3 桁を見えない形に切り替えた。究極の延滞対策は延滞者に卒業証書を渡さないシステムを作り上げることであろう。実施している大学では卒業生に関しては未返却資料 0 という実績を上げている。

督促については、家族に書名を伝えるかどうかについての意見が割れ、1 年間の留学プログラムが組まれているような大学では急を要する為、伝える等特殊事情もある。

業務上の対策

個人情報保護法検討チームを結成。鍵のかかるロッカーを設置。個人情報を入れておく。

リクエスト資料の発注の際、個人情報を伏せて発注している。

アルバイトの個人情報は管理者のみ電話番号を把握。事務室に履歴書等を置くこ

とはやめた。

システム上の対策として、ファイアーウォール、サーバーのアクセス制限、サーバー、ルーターの設定としては館内からしか設定が変更されないようにしている。

脆弱性の情報を収集 適切なパッチをあてる。

システムログのチェック = 不正なアクセスがないか

バックアップの作成

ファイル、CALISの(利用者情報、書誌情報のみ)データベースのバックアップ。

UPS(無停電電源装置)をサーバーにつけている。

今後のまとめ方

情報漏洩しないための対策と、漏洩してしまった後の対策との2つの柱に分けてまとめる。

後者には漏洩による罰則規定の調査や担当者(個人情報責任者)の設置が必須であろうというような内容も盛り込む。罰則については図書館界ではまだ前例がないため一般企業の事例も調べてみる。

漏洩時の対処の一般的な流れとしては、速やかに原因究明 接続を止める 被害者への連絡 ホームページでの公表(フリーダイヤル)その際、苦情処理窓口への連絡先及びメールアドレスを掲載。このあたりの肉付けは必要。

YES NO 式フローチャートのような形をとり、規模を問わず様々な大学に参考になるように、かつビジュアル的に見やすく作ってみたい。

管理職のリスクマネジメントの重要性を認識してもらう必要もあり、これは全体のまとめとしていきたい。

(2) 自然災害対策について

天災(地震・火事など)への対策について話し合う。

避難訓練の大切さを訴えるため、実践している大学の事例を次回参考にしながら話を進めていく。

ただ、次回この自然災害対策の話がこのグループの発表の柱となるかを見極めたい。その後、管理職(団塊の世代)が抜けたあとのリスクについて話し合う予定。

以上